

# 南予ブロック集会

日 時：令和7年2月2日（日）10:30～16:20  
 場 所：松野町役場 2階会議室（議場）  
 参加者数：68名（実行委員等11名、学生31名  
 引率・伴走者10名、一般16名）

予土線ツアー（オプション）	9：33～10：18
受 付	10：00～10：25
開会行事	10：30～10：40
事例発表 その1	10：40～11：30
フィールドワーク・昼食	11：30～13：00
事例発表 その2	13：00～13：40
質問・交流タイム	13：45～14：20
グループワーク（World Café）	14：30～16：00
閉会行事	16：00～16：20



**第9回 地域教育実践**  
**南予ブロック集会**

令和7年2月2日（日）10：30～16：30

「わたしの〇〇イズム」を語りつくそう!!

**日程**

- 予土線の旅
- 開会行事
- 事例発表
- フィールドワーク
- ポスターセッション
- ワークショップ
- 閉会行事

**参加者** 地域教育に興味のある方

**場所** 松野町役場 大会議室  
 愛媛県北宇和郡松野町松丸343  
 駐車場は松野町役場の駐車場をご利用ください

**参加費** 500円  
 （大学生以下は無料）

主催 地域教育実践ネットワークえひめ  
 協賛 NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構  
 後援 文部科学省・愛媛県・愛媛県教育委員会  
 「愛媛教育の日」推進会議  
 愛媛県教育研究協議会・南予管内市町等教育委員会連合会



フィールドワークで松野町を探索しよう!

- ぽっぽ温泉 地元の高校生の通学路・予土線。そして駅舎に温泉がある珍しい駅。
- 道の駅 虹の森公園まつの行ってみよう! 遊べる道の駅。ランチもおすすめ!
- 芝不器男記念館 松野町出身の有名な偉人を学ぶ場所。

松野の魅力を感じてね!

**事例発表団体**

- 一般社団法人 マツノイズムプロジェクト
- ワクワク本協会
- 次々と高校三間分校 情報ビジネス科

**ポスターセッション**

- 長浜高校ぶぶとん水族館
- 内子高校小田分校
- 三崎高校
- N-ジョチャレ（野村町）
- ストラボ（三間町）

**ワークショップ**  
 「わたしの〇〇イズム」  
 対話 × アイデア × 志 = ワクワク  
 個人、団体の志(イズム)を語ってワクワクする瞬間を過ごそう

**申込み**  
 申込フォームにて  
 1月24日(金)までに、お申し込みください。

**問い合わせ先**  
 地域教育実践南予ブロック集会 事務局  
 （南予教育事務所内） 担当：森分  
 電話：0895-22-5211(内線 457)  
 E-Mail: moriwake-hiroki@pref.ehime.lg.jp

## <概要>

今回の南予ブロック集会は県内で一番人口の少ない自治体である北宇和郡松野町で実施した。

「森の国」として知られる松野町には高等学校が存在しない。しかし、高校生は住んでいる。その町内の高校生たちが、地元松野町を支援しようと団体を組織し、「マツノイズムプロジェクト」という団体を設立した。令和4年度は任意団体として活動を開始し、令和5年2月に一般社団法人として活動を開始した。第9回となる南予ブロック集会は、企画・運営等を「(一社) マツノイズムプロジェクト」に全面的に協力いただいた。



企画の中心となるテーマは『わたしの〇〇イズム』を語りつくそう!』と設定した。集会の前半は高校生による各種団体が各々の活動を紹介し、後半は高校生を中心とした若者たちを中心に、いかに地域貢献に力を注いでいくかを考える時間とした。当初の企画段階では、全体での事例発表を3団体、その後5～6団体によるポスターセッションを予定していたが、都合により参加団体が減ったため、午前3団体、午後4団体の事例発表を聞き、その後、質問・交流タイムを3セッション行う方法に切り替えた。事例報告を行った団体(事例)は、午前が北宇和高校三間分校情報ビジネス部(美沼の里スイーツ)、ワクジマ生徒会、マツノイズムプロジェクト、午後が長浜高校ざぶとん水族館、内子高校小田分校、N-ジオチャレ、北宇和高校三間分校(予土線で創る地域の未来)の6団体(7事例)となった。

事例報告、質問・交流のあとは、11のグループに分かれてワークショップを行った。World Café方式で「自分の好き」「強み(自分軸)」を生かした地域貢献となるプロジェクトを企画した。各班のホスト役はマツノイズムプロジェクトの理事および、高校生団体の代表が担当した。

## <予土線ツアー(オプション)> 9:33~10:18

開会前にオプションとして、マツノイズムプロジェクト主催の予土線ツアーを実施した。

参加者はJR宇和島駅に集合し、予土線に乗車。車内では期間限定のARラジオ「予土線ユメラジオ」を聴取した。高校生の夢が語られた放送を耳にすることで、集会会場に向かう機運を高めていった。



予土線ツアー



予土線ツアー



### <開会行事>10:30~10:40

主催者を代表して浅野長武実行委員長、ホスト団体を代表してマツノイズムプロジェクトから谷口副理事長、地域教育ネットワークえひめから若松進一代表からあいさつがあった。



あいさつ 浅野実行委員長



あいさつ 谷口副理事長



あいさつ 若松代表

### <事例発表 その1>10:40~11:30

続いて、北宇和高校三間分校情報ビジネス部（美沼の里スイーツ）、ワクジマ生徒会、マツノイズムプロジェクトからそれぞれ活動事例の紹介があった。



北宇和高校三間分校



ワクジマ生徒会



マツノイズムプロジェクト

### <フィールドワーク・昼食> 11:30~13:00

昼休憩を兼ねて、会場周辺のフィールドワークを実施した。ここでもマツノイズムプロジェクトのメンバーがアテンド役を務めた。松丸街道を歩き、芝不器男記念館や地域のサードプレイスとなっている「せいけ ACCELE」、ぽっぽ温泉が併設されるJR松丸駅を通過して、道の駅「虹の森公園」までを散策した。



フィールドワーク



フィールドワーク



フィールドワーク

### <事例発表 その2> 13:00~13:40

午後からはポスターセッションを予定していた長浜高校ざぶとん水族館、内子高校小田分校、N-ジオチャレ、北宇和高校三間分校（予土線で創る地域の未来）の4団体から活動事例の紹介があった。



長浜高校ざぶとん水族館



内子高校小田分校



N-ジオチャレ

### <質問・交流タイム>13:45~14:20

事例発表の6団体に対して、質問や意見交換をする時間を設定した。事例発表を行った高校生自身も質問を受けるだけでなく、他団体との交流が図れるよう、時間を分けて3セッションの交流タイムを設けた。



交流タイムの様子



交流タイムの様子



交流タイムの様子

### <グループワーク (World Café) >14:30~16:00

グループワークは「World Café」を実施した。スタートのメンバーによって自分の「好き」や「強み（自分軸）」を柱とした地域活性につながるプロジェクト案を設定した。また、各グループには高校生によるホストを置いた。その後の2セッションではホスト以外のメンバーが入れ替わり、各グループのプロジェクトに対して様々なアイデアを加え、企画をブラッシュアップさせていった。最終セッションでは初期のメンバーが元に戻り、自分たちの企画案を深化させる作業を行った。



World Café



World Café



World Café



### <閉会行事>16:00~16:20

一日の活動の振り返りとして各自が自分の「好き」「強み（自分軸）」「得意」などを柱とした「わたしの〇〇イズム」を画用紙に記入した。各団体の発表を聞き、グループワークを実施したことにより、改めて自分自身の内面を振り返るきっかけとなった参加者も多くいた様子であった。

最後に上田和子副実行委員長からあいさつがあった。上田副実行委員長は「ここにいる大人たちは、若い力をあと押しできる人たち。そういう大人たちを増やし、さらに、つながっていくことをお願いしたい。」と話された。



World Café のまとめ



わたしの〇〇イズム

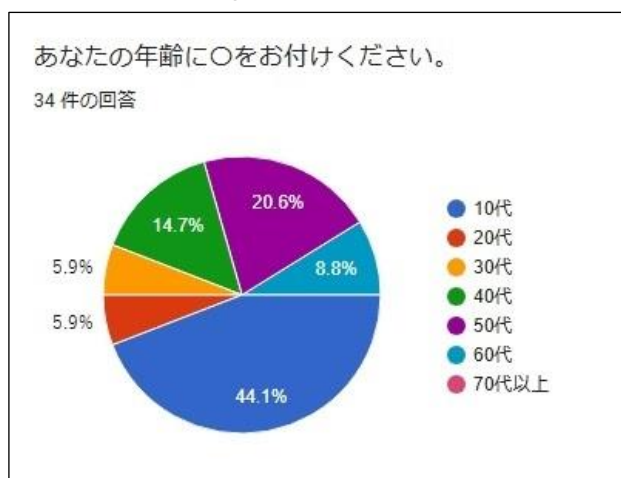


あいさつ 上田副実行委員長

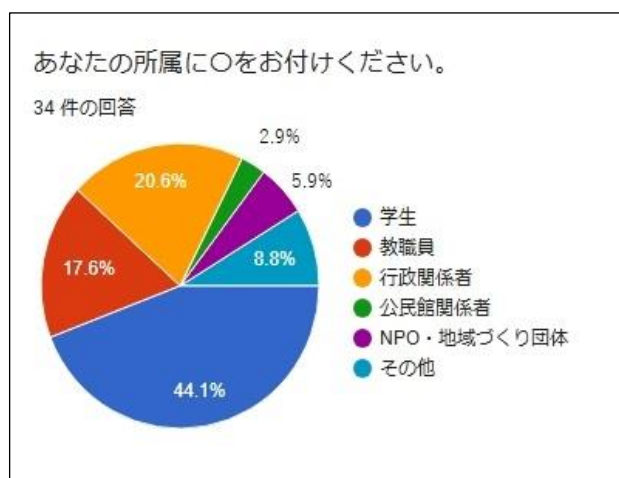


<アンケート結果> 回収率 56.7% (34名/60名) ※途中退席者等を除く

### Q 1 年齢構成



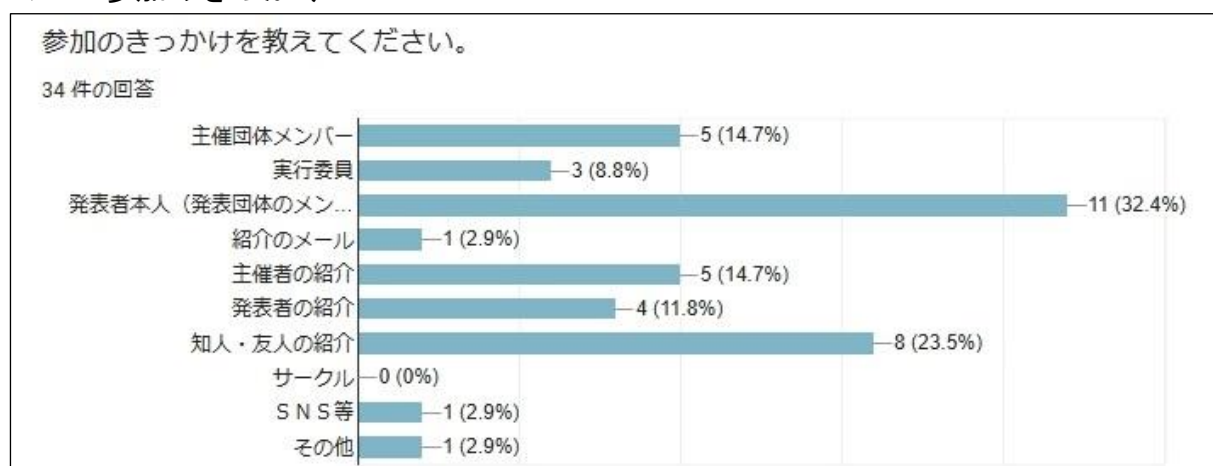
### Q 2 所属等



### Q 3 参加理由

- ・若者から刺激を受けて、自分を鼓舞させたい！
- ・松山南高等学校砥部分校での取り組みに活かせることがあると思ったから。また南予の学校とも何か取り組みができないかと考えているため。
- ・宇和高校の探究改革のため／市町を越えた社会教育の連携の可能性を探る。
- ・高校生ほか地域の次世代の方々の活動に関心があるから
- ・「教え子」の3年目（マツノイズム）のその後を見たかった
- ・学生がどんな取り組みをしているのか興味を持ったため
- ・母親に誘われたから
- ・自分たちの活動の報告と他団体との交流をするため。
- ・新たな気づきを得たかったから
- ・地域を少しでも良くしたいと思う皆さんと一緒に考えたいと思ったから
- ・地域実践交流集会の記録係をしている。それをきっかけに地域実践に興味を持ち始め、今回、実行委員長の浅野さんから案内もあり、参加してみたいと思った。

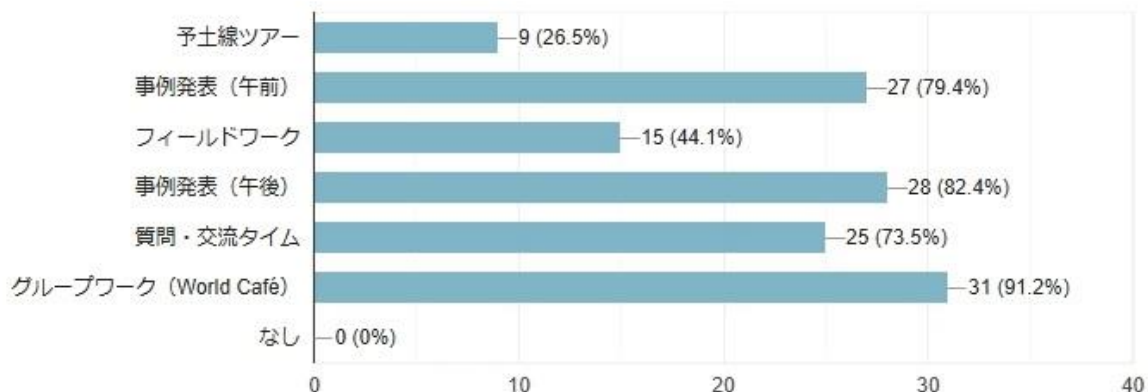
### Q 4 参加のきっかけ



## Q 5 新たな気づき、関心があったプログラム

今回の集会を通して新たな気づきがあったり、関係づくりにつながったりした内容はありましたか。あれば、チェックをしてください。（複数可）

34件の回答

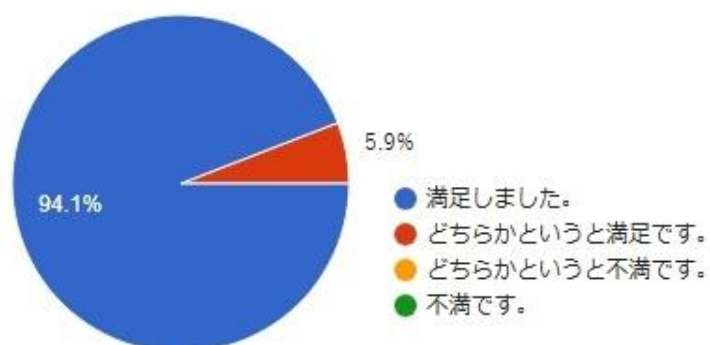


※予土線ツアー参加者 およそ 20 名

## Q 6 満足度に関する理由

集会全体を通しての満足度をお聞かせください。（必須）

34件の回答



### 【満足しました。】

- ・マイナス思考の自分に喝をいただきました。高校生の一生懸命な姿と、そこに关わる地域の大人の優しいバックアップが肌で感じられました。予土線ツアーやフィールドワークなど、新たなプログラムに取り入れられて、事務局のやる気とパワーを感じました。心から感謝です。（^▽^）/
- ・「伝える力」コミュニケーション力は偏差値に関わらず伸ばしていける事を実感しました。
- ・高校生を中心とした地域の次世代の考えや行動に大いに感銘を受けたから。
- ・発表者の方たちに質問をしたり、感想を伝えたりすることが出来たから。
- ・コミュニティ・スクール制度の中にある、子供に関わる大人が取組を通して自分の生き方を見通す機会になった。

- ・新たな人との繋がりを持てたり、意見交換・助言をいただけたり、貴重な経験になりました。
- ・高校生の取組が生きた活動でした。ワールドカフェで、ある高校生が「イベントをするだけでは継続にならない、古民家の活用をしながら地域住民の交流につなげたらどうか」という言葉に、アイデアはもちろん、継続も同時に考えられることに感心しました。経験値だと思いました。
- ・世代を超えて様々な人と出会い意見を交換できたから。
- ・様々な立場からの意見と多く触れ合えたから。
- ・たくさんの人と話せたから。
- ・発表者、参加者、スタッフ全員の熱量を感じられたから。
- ・他校の高校生の取組を知り、大変刺激になったから。
- ・参加された皆さんの考えや思いの一端を知ることができたから。
- ・発表や意見から感じ取れるものがあつた。
- ・高校生たちの実践をたくさん聞くことができ、さらには自分の好きをふるさとの元気につなげるイメージを広げる活動もあり、とても充実した時間となりました。
- ・参加生徒が生き生きと活動していたこと。
- ・さまざまなアイデアを得たり、高校生からパワーをもらったりできたように感じた。

#### 【どちらかという満足です。】

- ・事例発表等は良かったが実際松野町まで行ったのでそこで何か一緒にできることがあると良いかと思った。
- ・色々な人と交流することができて楽しかったから。

#### Q7 次回以降に学びたいこと。

- ・学校・民間・行政・地域の方といった色々な方との交流や意見交換。
- ・今年のように、その地域でしか感じられないプログラムがあると嬉しい。
- ・高校にボランティアを要望する住民、組織は大変多い。単なる「労働力」を求める声も少なくない。課題解決型プロジェクトを通じて「人財育成」の場としてとらえてもらうためには、どのような説明、メッセージが効果的なのか？
- ・学校と地域の多様なステークホルダーを効果的に協働させるうえで、異なる価値観や常識感、異なる利害を持つ関係者間のコミュニケーションの翻訳と調整等、橋渡しとして大きな役割をはたす「中間支援団体」に求められる役割、体制、運営、資金調達、成功事例、設立方法（手順）などについて、関心を持っている方々とともに学びあえる機会が欲しいです。
- ・地域どうしの繋がり／南予に関するイメージ
- ・どんなところがこのような活動を支援してくれるのか、知りたいです。
- ・地域の社会教育の拠点としての公民館のあり方。
- ・もっと多くの団体の取組事例を知りたい。



- ・来年度はまた違う団体の取組を聞いてみたい。
- ・高校生たちの地域愛やシビックプライドはどのように育まれているのか。また中高生を支える大人たちの話も伺ってみたい。行政や教育現場との連携についても。
- ・大洲市、内子町で行われている実践
- ・郷土愛（ふるさと自慢、好きな場所、好きなことなど）の涵養など。みんなが幸せに生きていけるふるさと、大事にしたいふるさとにするためには何が必要かなど。
- ・高校生が活躍できる場の設定方法。教員や周りの大人たちが「強制的にさせる」のではなく、子どもが自ら「楽しいからする」ようにもって行くにはどうしたらいいのか学びたい。

## Q8 全体を通しての感想

- ・南予の学生は地域の問題を他の愛媛の地域よりも自分ごととして取り組んでいるところが非常に良いと思いました。
- ・昨年度とはまた違う形での発表方法や企画もあり、新鮮な気持ちで参加、話し合いができ、大変良かったです。
- ・十代主体のまちづくり組織が広がり、繋がっていく未来は楽しいな。
- ・参加していたすべての高校生が自分たちの街を活性化させたい！という気持ちが強く、明日の南予は明るいと感じました。私も負けないよう頑張りたいと感じました。
- ・集会で発表した学生らがどのような形へ紡いでいくのか、（過去開催の当事者事例含め）今後の発展もフォローできる場があれば知りたいなと思いました。（個別のインスタ等などでなく）
- ・私は地元の事をずっと田舎で、そこがいい所ではあるけど、何も誇れることが無いと思っていました。ですが、今回、高校生の方の話聞いて、南予や地元は本当に凄いいところなのだと気づきました。高校生の皆さんの頑張りをもっとたくさんの人に知ってもらいたいと強く思いました。地元を愛する気持ちを大切にしたいです。
- ・他団体の活動や思いだけでなく、自分たちの活動や思いを口にして伝えることで、自分たちの意識も高まり活動への愛も深まった一日になりました。同じ志を持った方々と新たに繋がることができ、本当に楽しく良い経験になりました!!
- ・高校生たちの活躍が輝いていました。本当に良かったです。
- ・実行委員会の行い方と、会場準備の行い方を、実行委員みんなで一度話し合いませんか？飲みながらでもいいです。
- ・今回の集会で私は、様々な考えを持つことができました。高校生や大人の方々の意見など聞いて、自分とは違った角度から物事を捉えることができました。
- ・高校生の力は無限だなということを再認識しました。
- ・参加団体の皆さんが、アイデアを積極的に出しているのが印象的でした。ありがとうございました。
- ・グループワークがとても良かったです。

- ・上田さんのおっしゃられた通り、高校生たちの声に耳を傾け、これからの地域について真剣に考え、サポートできる大人たちを多くしていくことが必要だと思いました。「どうせ」「最近の若いもんは」「昔からこうだから」「よそもんが」では衰退の一途をたどるだけです。今まで通りを重んじることで、今の社会になっているのだから、変わらなければいけないと思います。真剣に地域課題に向き合う未来の担い手を支えられる大人たちを増やすことがどの地域にとっても大切ではないかと感じられる集会となりました。
- ・一番強く感じたことは、教育実践集会という取り組みが新たな目標を掲げるステージに入ったという感覚です。

今回の集会では、大人の伴走を前提としながらも高校生主体で企画・運営、発表も高校生がメイン、ワークショップも高校生がリードして行うという形でした。これまで、様々な研修や集会があるなかで、全てとは言わないまでも、その多くは「大人の、大人による、大人向けの会合」であったと思います。その意味で、次世代（大学がない南予においては高校生がメインになる）が主役の役割を果たした今回の集会は、非常に大きな意味と価値があったと強く感銘を受けました。準備と伴走にあたられた関係の方々には経緯と感謝の思いばかりです。ありがとうございました。

このような意義深い集会であったからこそそのことだと感じているのですが、更なる前進に向けた希望ないしは課題認識も生じてまいりました。それは、集会を教育関係者以外の地域社会の構成者に開いていくということです。社会総がかりの教育、学校と地域の連携を掲げた活動に長らく取り組んできながら、その集会の多くはいわゆる学校や教育の関係者に閉じられた形で行われてきました。今回の集会の参加者もほぼ全員が教育関係者であったとって過言ではないと思います。そこには「社会に開かれた教育課程」がなかなか具現化しないことと同じ理由があるように思います。それぞれの目的や利害、文化が異なる分野の人たちが、協働するということがそれほど容易なことではないということではないでしょうか。（産業界の人たちが、今回のような集会に大きな関心を示す状況にあるかと言えば、現状はそのような状況にあるとはいえないでしょう。）その意味で、私たちはこれまでのチャレンジを卒業して、新たなステージにあゆみを進める時期が来たと言えるのではないのでしょうか。ハードルはこれまでより高くなると思います。そのハードルを超えるための「次なる学びは何か」。それが一つ前の設問（次回以降、どのようなことを学びたいですか）に対する答えです。

- ・関係の皆さんお疲れ様でした。また、それぞれの地域について、関わる人たちについて語り合える日を楽しみにしています。ありがとうございました。
- ・今回もお世話になりました。いつも本当に、ありがとうございます。
- ・来てよかったです。
- ・色々な意見を聞くことができるいい機会だった。
- ・非常に有意義な時間を過ごせました。ありがとうございました。
- ・みなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。